

株式会社 堀場製作所

2018年12月期 決算説明会

代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

代表取締役副会長兼グループCOO 齊藤 壽一

2019年2月13日

堀場製作所 創立65周年

M&Aを活用してグローバルで成長

1996年 ABX社(仏)買収
(現ホリバABX社)



2005年 カールシェンク社(独)の
自動車計測機器ビジネス(MCT)を買収



1997年 Jobin Yvon社(仏)買収
(現ホリバ・フランス社)

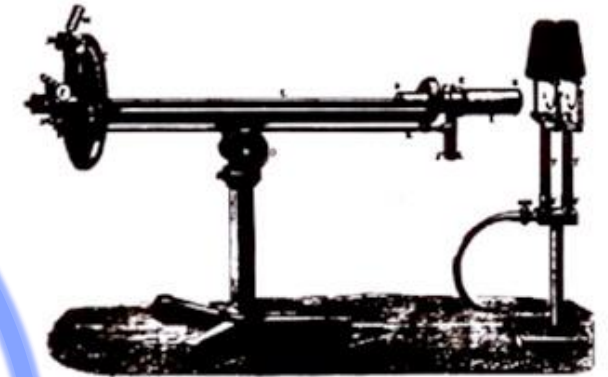
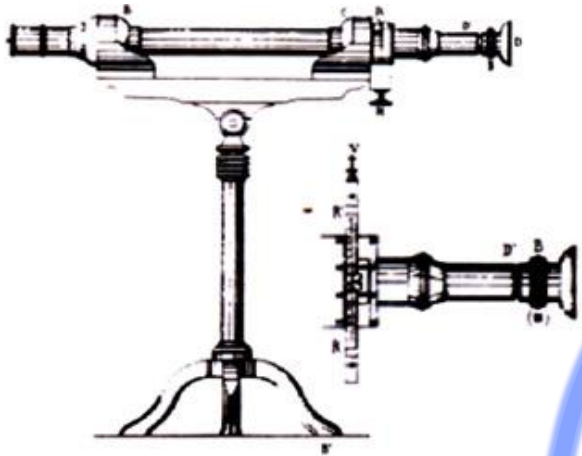


2018年 FuelCon社(独)買収
(現ホリバFuelCon社)



2015年 MIRA社(英)買収
(現ホリバMIRA社)

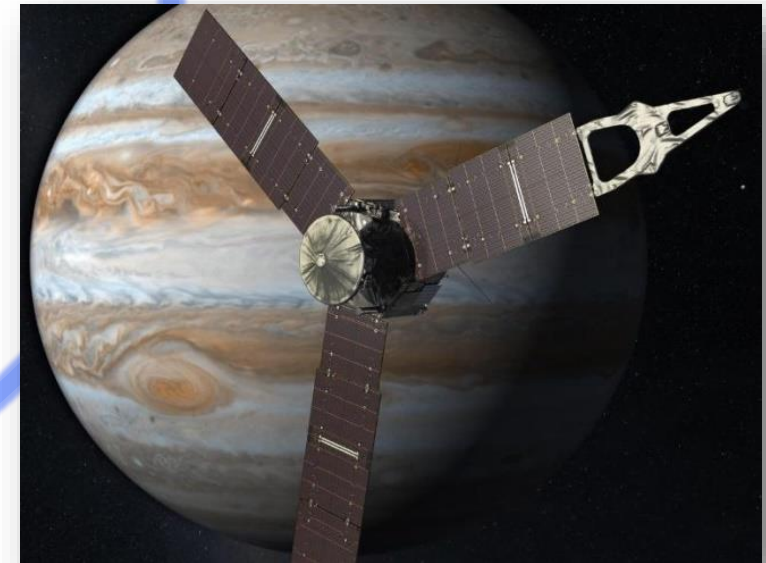
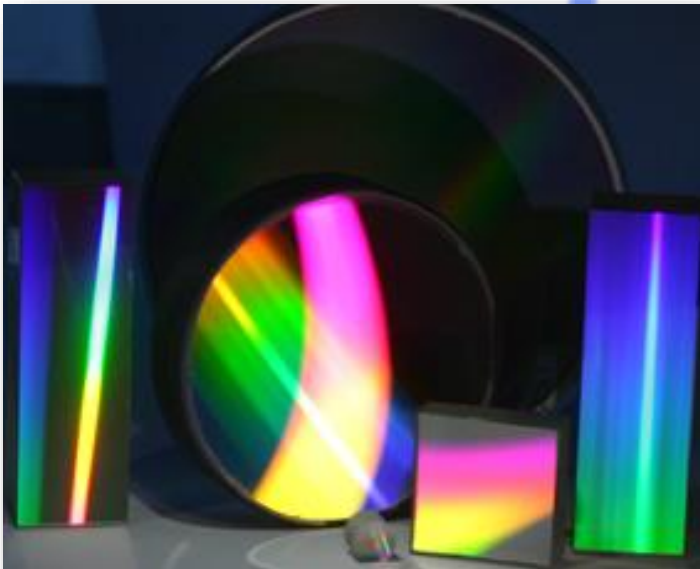
ジョバン イボン
Jobin Yvon 創業200周年



20 YEARS
1819-2019

HORIBA JOBIN YVON

Sharing light and passion
200 years of optical innovation



創業の製品

堀場製作所



pHメーター

Jobin Yvon社



灯台用フレネルレンズ

説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- 2019年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

※本プレゼンテーションにおける2015年の実績は、2016年に変更した収益認識基準に遡及適用後の値を記載しております。

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- 2019年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2018年の振り返り

外部 環境	◆ 米中貿易摩擦の過熱 ◆ 英国EU離脱の不透明な先行き ◆ 自動車の排ガス規制強化、電動化の流れ ◆ 年後半からの半導体設備投資の減速
内部 状況	◆ 新たな経営体制の始動 ◆ 北米拠点強化(半導体・科学) ◆ 阿蘇工場拡張(半導体) ◆ M&Aを含めたバッテリー試験技術への積極投資 ◆ 売上高2,000億円を初めて突破

2018年12月期 決算概要

売上、利益、配当いずれも過去最高を達成

P&L

- ◆自動車と半導体セグメントが前年比で増収増益
- ◆半導体は市況の変化により下期スローダウン

B/S

- ◆総資産は、棚卸資産の増加などにより+122億円の2,781億円
 - ◆短期借入金は、FuelCon社買収等により+36億円の120億円
 - ◆自己資本比率は58.0% (+1.5p)
- (2017年12月末比)

CF

- ◆利益計上などにより、営業CF: +195億円
 - ◆設備投資などにより、投資CF: ▲110億円
 - ◆配当金の支払などにより、財務CF: ▲32億円
- フリーCF: +85億円

2018年12月期 連結実績

(単位:億円)

	2017年	2018年					
★ 過去最高	実績	期首予想 (2/13)	前回予想 (11/9)	実績	VS 前年	VS 期首予想	VS 前回予想
売上高	1,953	2,100	2,070	★ 2,105	+151	+5	+35
営業利益	268	290	275	★ 288	+20	▲1	+13
営業利益率	13.7%	13.8%	13.3%	13.7%	▲0.0p	▲0.1p	+0.4p
経常利益	266	284	269	★ 283	+17	▲0	+14
親会社株主に帰属 する当期純利益	162	190	200	★ 223	+60	+33	+23
USD(円)	112.16	110.00	110.00	110.44	▲1.72	+0.44	+0.44
ユーロ(円)	126.70	130.00	130.00	130.35	+3.65	+0.35	+0.35

2018年12月期 連結実績(セグメント別)

(単位:億円)

★: 過去最高	売上高							営業利益						
	2017年	2018年						2017年	2018年					
	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (11/9)	実績	VS 前年	VS 期首 予想	VS 前回 予想	実績	期首 予想 (2/13)	前回 予想 (11/9)	実績	VS 前年	VS 期首 予想	VS 前回 予想
自動車	733	790	780	★796	+62	+6	+16	76	80	65	★77	+0	▲2	+12
環境	174	190	190	★193	+19	+3	+3	10	14	14	20	+9	+6	+6
医用	251	260	260	260	+8	+0	+0	19	20	20	18	▲0	▲1	▲1
半導体	533	580	560	★577	+44	▲2	+17	156	170	170	★170	+14	+0	+0
科学	261	280	280	★277	+16	▲2	▲2	4	6	6	2	▲2	▲3	▲3
合計	1,953	2,100	2,070	★2,105	+151	+5	+35	268	290	275	★288	+20	▲1	+13

説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- **2019年12月期 業績予想**
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

2019年市場環境の想定

自動車		アジアを中心とした排ガス規制強化や、電動化・自動運転技術の開発加速により、自動車関連メーカーの投資意欲旺盛
環境		新興国での環境規制強化による需要増 石油産業の投資回復
医用		国内：開業医市場の需要は堅調 海外：新興国では血液検査需要拡大
半導体		半導体メーカーの投資は一時的な調整局面 中長期的視点での半導体需要は増加、投資回復に期待
科学		企業の研究開発投資は旺盛 二次電池向けの新素材研究加速

2019年想定為替レート

(単位:円)

	2017年	2018年	2019年	
	実績	実績	予想	vs 前年
USDドル	112.16	110.44	110	▲ 0.44
ユーロ	126.70	130.35	125	▲ 5.35

2019年予想: 1円円高による営業利益へのインパクト(通期)

USDドル ▲2.4億円

ユーロ ▲0.1億円

2019年12月期 業績予想

(単位:億円)

	2017年	2018年	2019年	
	実績	実績	予想	vs前年
★ 過去最高				
売上高	1,953	2,105	★ 2,180	+74
営業利益	268	288	★ 290	+1
営業利益率	13.7%	13.7%	13.3%	▲0.4p
経常利益	266	283	★ 285	+1
親会社株主に帰属する 当期純利益	162	223	200	▲ 23
一株利益(円)	386	529	474	▲55
ROE	11.5%	14.3%	11.9%	▲2.4p

2019年12月期 業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	2018年 実績	2019年 予想	vs 前年	2018年 実績	2019年 予想	vs 前年
★: 過去最高						
自動車	796	★ 850	+53	77	★ 90	+12
環境	193	★ 200	+6	20	20	▲0
医用	260	★ 280	+19	18	20	+1
半導体	577	550	▲ 27	170	150	▲ 20
科学	277	★ 300	+22	2	10	+7
合計	2,105	★ 2,180	+74	288	★ 290	+1

説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- 2019年12月期 業績予想
- **セグメント別詳細説明**
- 株主還元
- その他トピックス

2018年実績/2019年予想

(単位:億円)

2018年実績

- + 排ガス 中国・インドでは新規規制導入に向けて需要増
- + - MCT※1 買収費用など一時費用が発生
- + - ECT※2 次世代自動車開発分野でのビジネス拡大

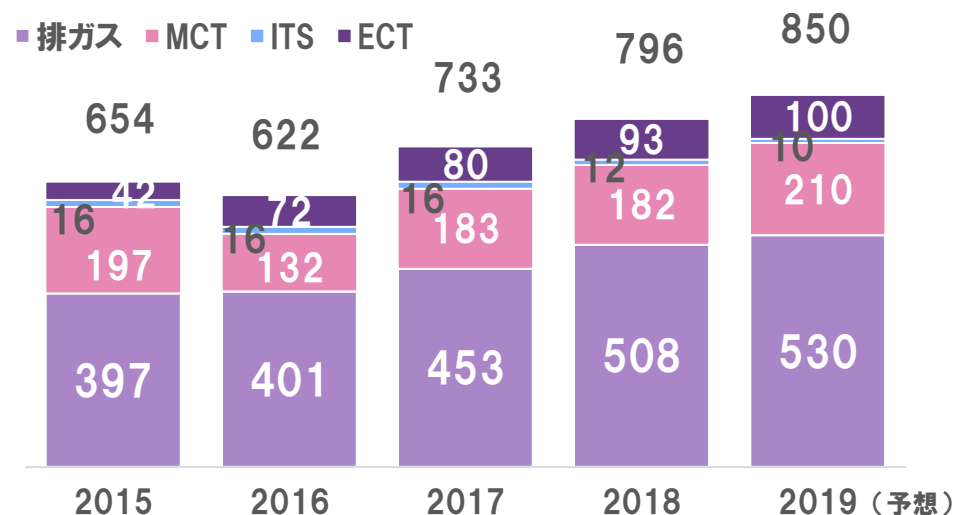
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

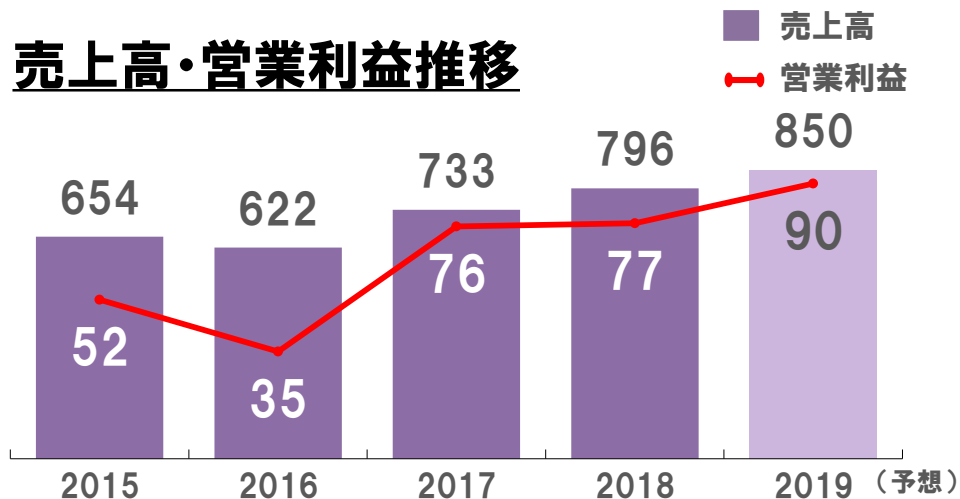
2019年予想

- + - 排ガス アジア・欧州での販売堅調
競争力強化に向けた投資増加
- + MCT 日本・欧州での販売が増加
- + ECT 積極的な投資でさらなる成長加速

自動車売上高内訳



売上高・営業利益推移



産学連携で自動車産業の変化に対応

シミュレーションによる自動車開発加速 開発の効率化へ寄与

- 試作前に検証可能な試験機器の開発促進

HORIBA

ドレスデン工科大学
(ドイツ)

試験設備開発で協働

試験設備投資・
提供(レンタル)学術的なノウハウ
の提供

コネクテッド・自動運転技術の開発促進

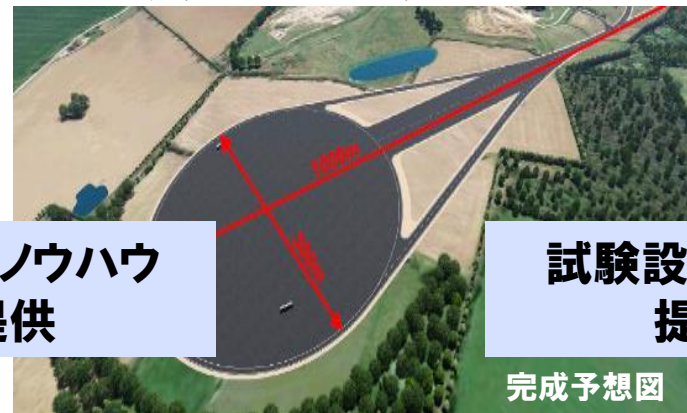
- サイバー攻撃に対する安全性
- 複数車両高速自動走行などの試験・評価

コベントリー大学
(英国)

HORIBA COMPANY

MIRA

ホリバMIRAに新実走行試験設備稼働(2020年予定)

学術的なノウハウ
の提供試験設備投資・
提供

完成予想図

自動車

電動化に対応するソリューションを拡充

ドイツ・FuelCon社買収による電池試験事業の強化 【2018年9月買収】

【事業内容】

電動化車両のバッテリーや燃料電池の試験装置の開発・生産

【主要顧客】

Volkswagen、BMW、Audi、Hyundai、Bosch、ほか

【事業別売上高構成比】

リチウムイオン電池試験設備：23%
燃料電池試験設備：77%

※2018年第4四半期実績

電動化車両開発ビジネスの
拡大加速



バッテリーモジュール・パック試験システム



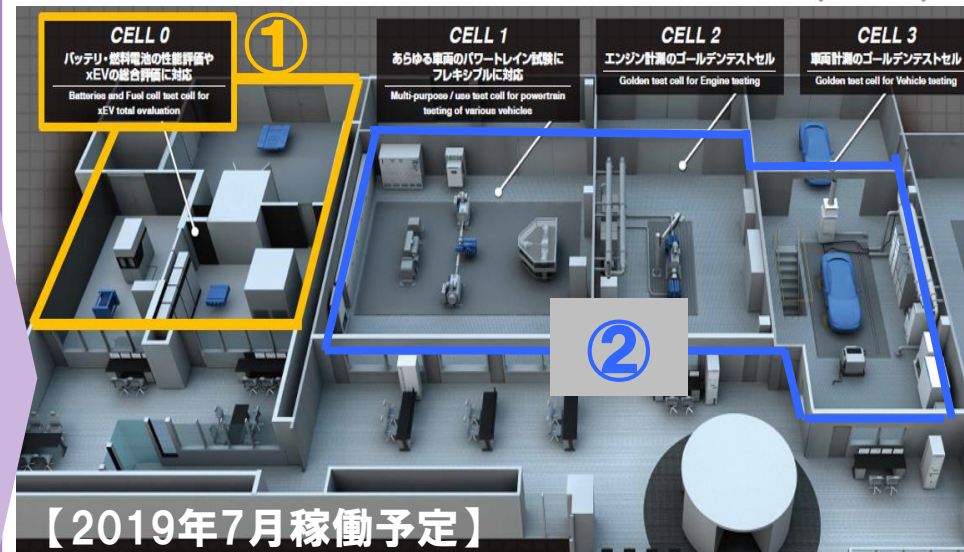
バッテリー・エミュレーションシステム



バッテリー生産ライン試験システム

車の電動化を見据えた 先進ラボの稼働

HORIBA BIWAKO E-HARBOR Cell 0(ゼロ)



- ①Cell 0 FuelConとMIRAの技術を導入
- ②Cell 1-3 駆動系・車両試験設備(稼働済)

駆動系のトータルシミュレーションが可能
→HORIBA独自の評価試験設備の完成

2018年実績/2019年予想

(単位:億円)

2018年実績

- 【煙道排ガス・プロセス計測設備】
営業強化により米国での販売増加
- 【大気】環境規制強化で新興国での需要増加
- 【水質】アジアでのビジネス拡大により販売増加

水道水 品質監視装置

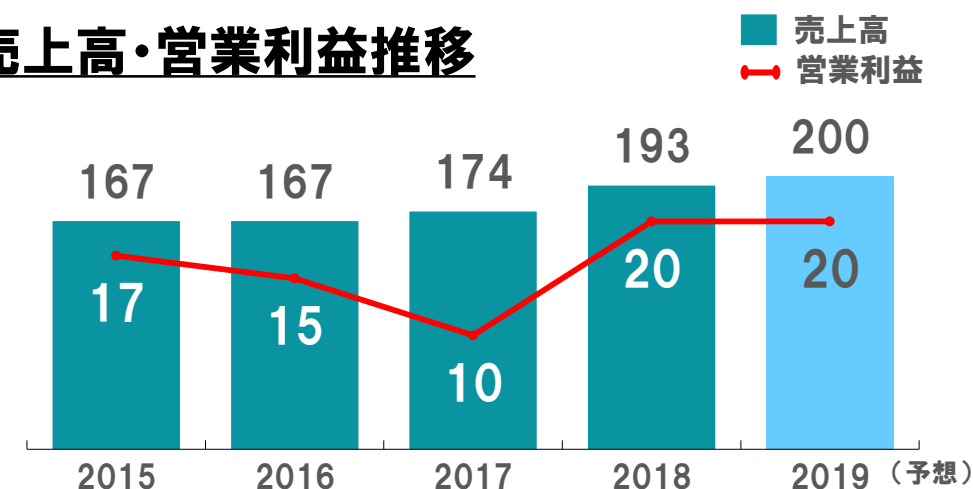
マレーシア・クアラルンプール市に納入

2019年
も継続
受注へ

2019年予想

- 【煙道排ガス・大気】
国内市場の回復への期待、アジアでの環境規制強化
- 【プロセス計測設備】顧客の投資回復継続
- 【水質】新興国でのさらなるビジネス拡大を図る

売上高・営業利益推移



現地化推進によるビジネスの拡大

先進国・新興国の市場動向に合わせた現地化が結実

● HORIBAグループ
主な環境セグメントの拠点



煙道排ガス
分析装置

【インド】
エンジニアリング強化
煙道排ガス分析装置需要
増加、現地で製造・販売

【ドイツ】
製造・販売機能強化
欧州向け環境汚染
計測装置出荷台数が
過去最高を記録

【中国・アジア】
開発・エンジニアリング
促進/販売機能強化
環境規制強化による
計測機器ニーズの増加



【水質計測】
自動全窒素・
全りん測定装置

【米国】
販売機能・
新製品開発強化
プロセス計測設備
事業の強化



石油精製プロセスにおける
各種計測機器をシステム化、
一括提供

グローバルビジネスにおけるHORIBAの地位確立へ向けて邁進

2018年実績/2019年予想

(単位:億円)

2018年実績

- + 中国・インドでの血球計数装置販売好調
- + 競争力強化に向けた研究開発費用の増加
- + 微量血液検査システム事業の承継により製品ラインアップ強化へ

最新検査システム



Solution
(2017年発売)

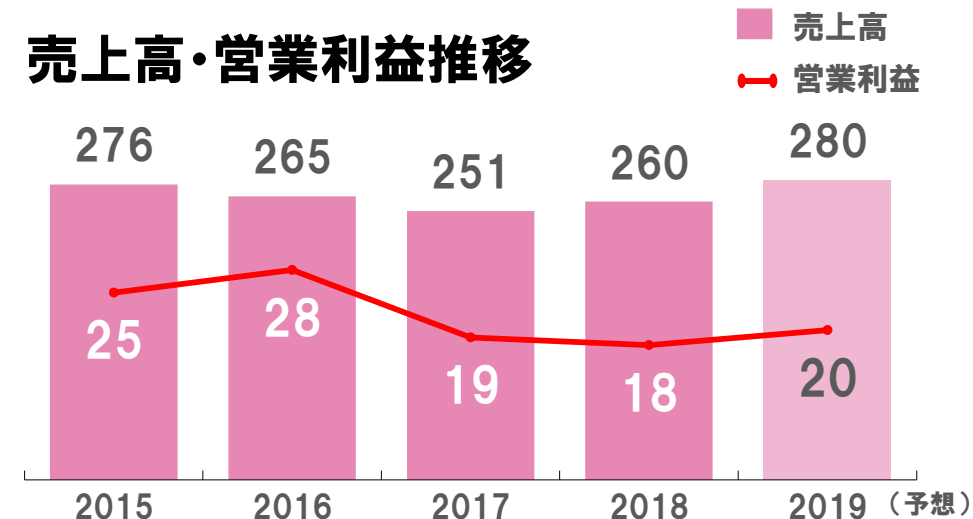


英国・ブラジルの
大型検査センターで稼働
(写真はブラジルでの様子)

2019年予想

- + 日本での血球計数装置の競争激化も、新製品拡販により売上増をめざす
- + ビジネス拡大(微量血液検査システム事業など)による研究開発費用の増加

売上高・営業利益推移



技術の拡大と製品機能の拡充

ローム株式会社から 微量血液検査システム事業を承継

【事業内容】

電子部品の微細加工技術を
応用、開発したμTAS※¹技術

【技術の特徴】

CRP※²・HbA1c※³を、より小型・低コストで
測定できる製品提案が可能に

※¹ Micro Total Analysis System

※² C反応性蛋白。代表的な炎症マーカー

※³ ヘモグロビンA1c。過去1～2ヶ月の平均的な血糖値を表す

<検査カテゴリー別の事業展開>

検査カテゴリー		生化学	血球計測	免疫	凝固
市場規模		2兆円	3,500億円	2兆円	2,000億円
病院	大病院 検査センター	生化学	中/小型 血球計数	CRP	中/小型 凝固 装置
	中小病院				
開業医					
病棟・手術棟(POCT)					

(市場規模は当社調べ) **POCTカテゴリーのラインナップ拡充(主に生化学・免疫)**

製品機能拡充による 社会課題解決への貢献

血球計数装置に マラリア感染スクリーニング機能付与

- マラリア感染の検査工数を低減
- 新たな設備導入よりも低コスト



3 すべての人に
健康と福祉を



SDGsではマラリア根絶が謳われている

製品ポートフォリオ拡充 ➡ 院内検査市場でのシェアの拡大

マラリア撲滅 + 事業成長！

2018年実績/2019年予想

(単位:億円)

2018年実績

- + 売上高・営業利益ともに過去最高
- + 阿蘇工場拡張、米国・HORIBA Reno Technology Center開設で供給 & 開発力強化
- 半導体メーカーの一時的な投資調整により、年後半はスローダウン

堀場エステック創立45周年

1980年

初の国産マスフローコントローラーを投入

世界シェアNo.1(60%※)に成長

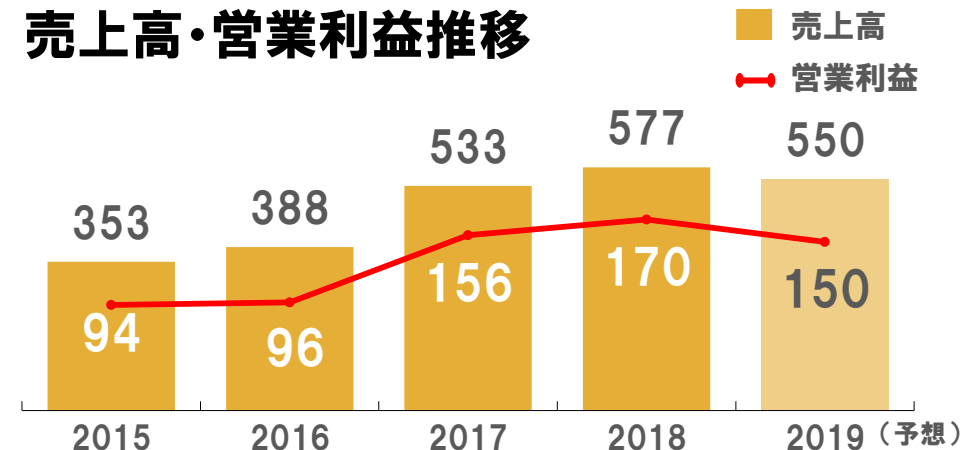


※自社調べ(2019年現在)

2019年予想

- + 半導体メーカーの投資は、年前半は調整局面が継続も、中長期的視点での需要は増加、年後半の回復に期待

売上高・営業利益推移



半導体

半導体製造プロセス全体でのビジネス拡大

豊富な製品ラインアップでトータルの半導体製造プロセスに貢献 **ESG** **ESG**

材料評価

Materials Analysis



ラマン分光分析装置
(次世代半導体材料の評価)

Device Analysis



カソードルミネッセンス測定システム
(化合物半導体の評価)

製造工程

Dry Process



マスフローコントローラー
(エッチング工程での精度向上)

Wet Process



薬液濃度モニター
(各種薬液の高精度な測定)

Lithography



異物検査装置／異物除去装置(露光工程での品質向上)

品質管理／排水処理

Utility/Wastewater



pHメーター

(工場での適切な純水／排水管理)



現場形工業用水質計



Beyond Water with You
水質関連ビジネス

※製品は一例

2018年実績/2019年予想

(単位:億円)

2018年実績

- + 企業の活発な研究開発投資を背景に
日本、欧州で販売増
- + 米州で拠点強化に伴う費用が発生

2019年予想

- + 拠点強化による生産能力向上により
米州での販売増加を見込む
- + 日本、欧州の需要環境は引き続き堅調
- + 二次電池向けビジネス拡大に向けた取り組み強化

2018年新製品

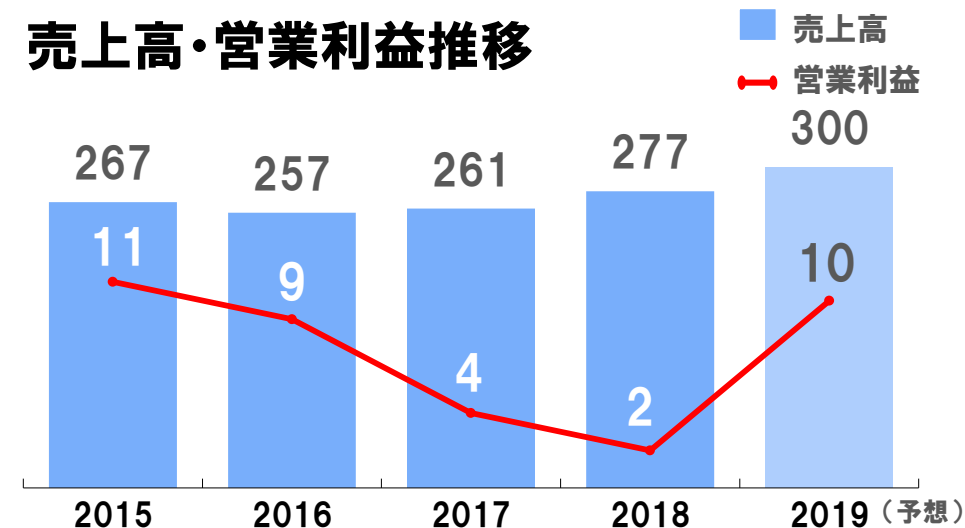
微小部X線分析装置XGT9000

- ✓製品の不良解析、
異物分析がより正確に
- ✓非破壊・非接触



リチウムイオン電池・半導体集積回路・
食品・薬品などの分析で活躍

売上高・営業利益推移



コアビジネスの拡大と技術進化への貢献

MANTA Instruments社買収による 新技術の獲得

- ナノ粒子計測機器を開発・製造・販売する米国のスタートアップ企業を2019年1月に買収
 - ✓ ナノ粒子計測技術で特許取得、高い評価

MANTA Instruments, Inc

設立場所: カリフォルニア州サンディエゴ

設立年: 2014年9月

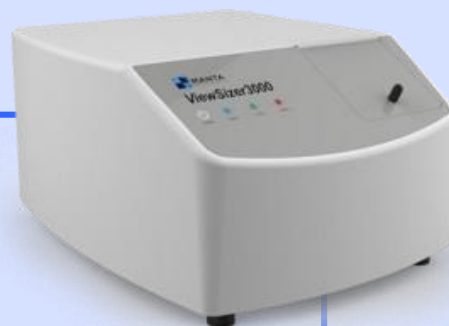
従業員数: 6人

ViewSizer3000

対象分野:

ライフサイエンス・半導体・

医薬品・食品・化粧品・触媒・二次電池

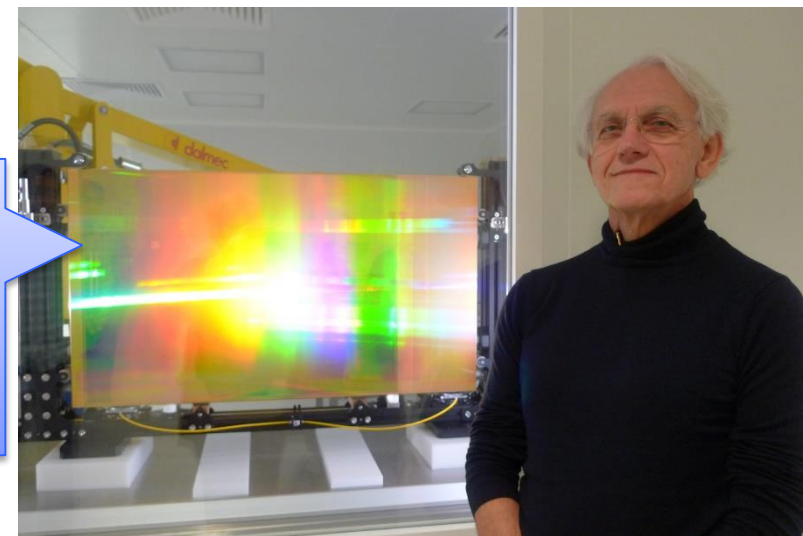


粒子計測機器において、さらなる事業拡大を図る

技術進化への貢献

- 2018年ノーベル物理学賞を受賞したジェラルド・ムル教授がHORIBAのグレーティングを長年使用

HORIBAの
メートル
サイズの
グレーティング



ノーベル博物館に展示する記念品として
グレーティングを選出

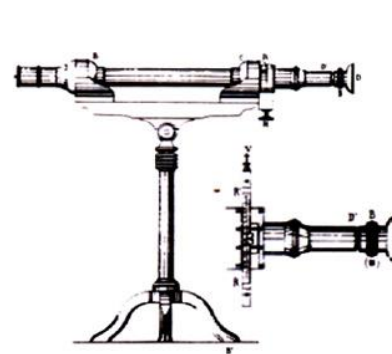
最先端分野を支える分析コア技術

HORIBAとJobin Yvonの技術が融合し、新たな市場を開拓してきた20年

堀場製作所創立65周年



産業向けの計測器などで
強みのあるHORIBA



科学者・先進研究向け製品の強みを持つ
Jobin Yvon

科学

独自の市場開拓／HORIBA事業のインキュベーター

自動車

環境・プロセス

医用

半導体

説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- 2019年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- **株主還元**
- その他トピックス

株主還元政策

基本的な考え方

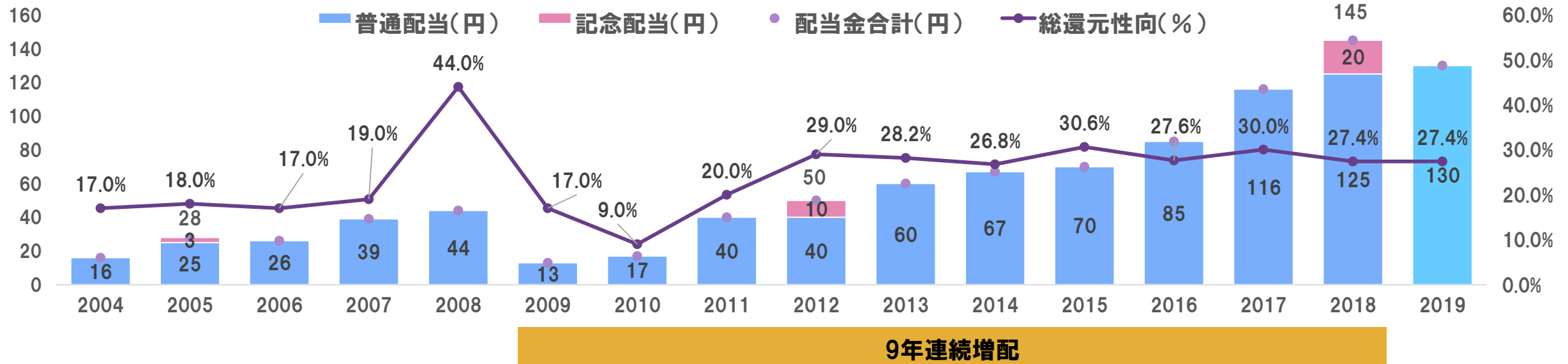
- 配当金＋自己株式取得＝連結純利益×30％を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保（設備投資・M&Aなど）

配当金及び自己株式の取得

- 2017年実績 116円 [中間 40円、期末 76円]
- 2018年実績 145円 [中間 50円、期末 95円]
- 2019年予想 130円 [中間 50円、期末 80円]

普通配当125円
創立65周年記念配当20円

2004年からの配当推移



説明内容

- 2018年12月期 決算概要
- 2019年12月期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス

現場に根差した働き方改革

ステンドグラス・プロジェクトの取り組み

STEP1
2014年

- 「女性活躍推進」からスタート

STEP2
2015年～

- 「働き方改革」ワークショップ開始
- テーマ「一人ひとりの行動変化」

STEP3
2016年～

- 経営・人事・現場をつなぐステンドグラス
- 現場・組織毎の特徴を生かす



ダイバーシティに関する
取り組みを紹介する
WEBサイトを開設

<http://www.horiba.com/diversity/>

Good Place勤務制度の導入

柔軟な働き方を可能にし、
有能な従業員の就業継続をめざす

Good Place勤務制度

- ✓ 居宅以外での勤務も可能
- ✓ 在宅日数に制限なし

チームごとに
ガイドラインを
策定・運用

Good Place勤務制度に
「テレワーク・デイズ」※の
参加経験を反映

※テレワークの全国一斉実施を
呼びかけた日本政府が展開する運動



ご清聴ありがとうございました。

【参考】20年間の業績推移・目標、MLMAP進捗

(単位:億円)

売上高・営業利益・純利益の全てにおいて、継続的な成長

2010年からの10年で2倍に成長

